

これからのことを…4の(18)

●方丈記を読んで(4)



鳴長明

辛い状況が続きます

またもやオミクロンの感染がひろがって、まるごと館では講座などを延期にせざるを得ない事態になってきました。また働いて子育て真っ最中の方々にとっては感染で保育園が休園、学校も休校となれば、仕事が出来ませんから、本当に大変な日々を過ごしておられると思います。

仕事がなくなり食べることもままならない、自殺者が特に女性が多いとか…そういう辛い話題がこの所紙面に。

八幡まるごと館だより

2021年2月8日/146号

<発行>八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20

(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)

(E-MAIL) yawata@marugotokan.net

ホームページは <http://marugotokan.net/>

又は、八幡まるごと館で検索して下さい

八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。

そして、出かけることが出来ない、会いたい人に会えない生活がいつまで続くのかと思います。入院中の方とか施設入所の方とか、普段より心細い上に更に追い打ちをかけるような今回の状況です。どうやって気持ちを保ち持ち続けていけばいいのかが切実な問題としてあります。又、何が本当のことなのかもよくわかりません。

また長明さんのことを

長明さんは人付き合いが余り上手ではなかったと言われています。彼は方丈記と同時期に「無名抄」という歌論書を。歌のことや歌人の逸話や思い出等を載せています。歌仲間と歌碑を巡って得たことも書かれているんですね。

友人はいたんですよ。亡き父の跡を継ぐという目標が親戚筋とのもめ事できなわず、『すべて、世の中のありにくく〜』とか

『世、に従へば、身苦し』、『〜心を悩ませること、30余年なり。折り折りのたがひめ、おのづから、短き運をさとりぬ〜』と言い、



方丈庵跡地

後54歳で日野の山中へ。車2台で建物の材料を運び、自分で設計して掛け金で取り付けて作ったんです。それが



(河合神社)方丈庵復元

方丈庵です。その名の通り3m×3mの広さで、この場所に不都合が生じたら、また移動しようという考えだったようで、長明さんにとってこの庵での生活は充実していたとはいいますが。さて。

率直に寂しさを

『もし、夜、静かなれば、窓の月に故人をしのび、猿の声に袖をうるほす。〜山鳥のほろとなくを聞きても、父か母かと疑ひ〜』

方丈記のこの部分のことは以前に書きました。月が美しく冴えわたった夜には、昔の友だちのことを思い出し、猿の泣き声から涙が目には浮かぶこともあった。また、ほろほろと鳴く野の鳥の声を聞き、父母を思いだすと長明さ

んは書きます。素直に自身の寂しさを書いたのが方丈記で唯一この部分なのかなと思います。他の箇所ではちょっと無理してるのではと感じられる所がありました。

こんな時に、ふもとの山の管理をする山守に10歳の子がいて、その子がよく方丈庵に訪ねて来て一緒に出かけたりしたそうです。共に茅花(つばな)や岩梨、むかご、せりをつんで食べたり、わら細工等を作って心ゆくまで楽しんでようです。孫ほど



茅花

に年は離れているけれど、心が安らいだといいます。



岩梨

とても気があったんでしょね。



むかご

そこでの暮らしを少し

『〜峰の鹿の近くなれたるにつけても、世に遠ざかるほどを知る』

人との煩わしいこともない山中での暮らしを気に入っていた。

『ひとり調べ、ひとり詠じて、みづから情をやしなふばかりなり』

歌や音楽に長けていてもやっぱり寂しかったんですね。環境として、夏はいいかもしれませんが、冬は寒かったと思います。当時は今のようにカイロは勿論、暖房もないし、『埋み火を

かきおこして老の寢覚の友とす』という
 方丈記中の言葉が示す通り、夜寝られない時に灰の中の炭に火をつけて暖まったのでしょ。火だって直ぐには。着ているものはといえば『藤の衣、麻の衾』
 (衾ふすまは寝具)です。寒さが寂しさに拍車をかけるような時もあったと思います。そして、色々と思い出しては涙を流し、鹿が近くに来るのはこの場は勿論長明さん自身がいかに世とかけ離れているかを思い知らされてしまうのだと。

この方丈庵でそれまでの日々を振り返って、この方丈記を書いていったんですね。だから、五大災厄(大火、辻風、飢餓、遷都、大地震)はその出来事があったから約 30 年前後の時が経っていました。1212 年長明さん 58 歳でした。

それから 810 年たって

家からほとんど出ない方がいらっしやいます。テレビや新聞では毎日のように感染者数や死者数を大声で伝えています。それを目や耳にしたら、恐ろしく

絵手紙講習会



12日 小雪が舞う寒い日でした。そのせいか参加者は少なかったです。森本玲子さんは珍しいアロエの花を持って来られ何人もの方が描かれていました。今度

なって外に出られなくなります。

2020 年の緊急事態が出された時に、まるごと館にはあまり人が来られなくて、私は野菜を買いに来て下さったお客さんと話ができるだけでほっとしました。

それほど何かに飢えていました。寂しかったんですね。今もまるごと館は当時と変わりませんが、私は持ちこたえています。

そばに誰かがいてくれる

毎日顔を見なくても、そういう存在が頭に浮かぶだけでいいんです。前回の時にそのことを実感して、支えて下さっている方々に、そんなまるごと館に本当に感謝しました。つながりを感じられるのがちからになります。長明さんとは状況が違うのですが、素直に寂しさを表明した長明さんから感じたことを書きました。

まるごと館の役割とはそういうことかなあと思います。集まる場ということだけではなく、まるごと館に関わって下さった方々から教えていただきました。

<1月にこんなことをしました>



のミニギャラリー展示は森本さんが関わっておられる箇所との合同で、9 月くらいにとのお話でした。前と同じく画用紙 1 枚分必要です。用意しておいて下さい。

オガけひまわり



17日(写真日) 年末からずっと集まって練習できるかなと思っていたのですが、また感染の拡大でやむなく練習を 2 月いっぱい休みます。休んでも一度覚えた指使いは忘れるもの

ではありませんから。時には練習をなさって下さい。また安心して集まることが出来る日々を楽しみにしています。それまでお元気にお過ごし下さい。

八幡まるごと館 2月・3月の予定

休館 2月21日(月)

<パソコン教室>	毎週月曜日 10 時～12 時です
2月4日(月)10 時～12 時	パソコンを持って来て下さい。費用 300 円(コーヒーつき)
<オガけクラブ ひまわり>	2 月いっぱい休みます。再開する時は連絡致します。
<絵手紙講習会>	2月13日(水)午後1時30分～ 講師 森本玲子さん 参加費 400 円(コーヒーつき) 次回は3月9日(水)です
<味噌づくりませんか>	2月25日(金)10 時～参加費 100 円 煮大豆を持って来て下さい
<楽しい理科の実験 N042 電気パン>	持ち物 なし 初めての方もどうぞ
3月4日(金)13 時30分～	講師木下章司さん 参加費 300 円(コーヒーつき)
<歴史を学ぶ 新八幡の歴史 N033>	3月10日(木)13 時30分～ 講師出口修さん 参加費 100 円 月1回です

<あんなこと・こんなこと>

* 長明さんの生活から子供だった頃の生活を思い出しました。薪でごはんを炊いたり、お風呂も。さんまは七輪の炭で焼きましたし、冷蔵庫もなかった。今のように寒ければ暖房ということもなく、こたつに炭火を入れ暖まった。この時の長明さんの生活はもっと自然に近いものだったように思います。それゆえ自然に負荷をかけない。それに比べ今現在の生活は自然環境を破壊するほどに。反省すること頻りです。今のまま歩めば地球は大変なことになります。鎌倉時代の平均寿命は 24 歳だったようです。飢餓や戦乱で早くになくなり、長明さんのように 60 歳という

のは随分長生きだったようです。長明さんをもう少し書けたらと思っています。

* 中々集まる事が出来ませんから、閉じこもってしまい、落ち着かない方が結構いらっしやるかと思えます。どうぞお話をまるごと館にお越しください。この頃でも数人来て下さって、私の方が元気をいただいています。

* 講師を招いての味噌づくり講習会がもう 2021 年、2022 年と 2 年続きで出来ていませんが、まるごと館でお手伝いということで今年も企画しました。沢山の申し込みをいただき嬉しく思っています。根付いてきたのかなあと。(うえたに じゅんこ)